様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２２０１０

研究課題名（和文）18世紀フランスにおけるフリーメイソン団と女性

研究課題名（英文）Freemasonry and Women in Eighteenth-Century France

研究代表者
田瀬　望（TASE, Nozomu）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・研究員

研究者番号：６０８７６０３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近世ブリテン諸島で男性組織として出発した秘密友愛団フリーメイソン団が18世紀フランスに伝播・定着する過程で女性を受け入れ始めた動機と背景を検討し、団体における女性の地位や役割を分析することで、旧体制から革命期までのエリート層の生活様式ややジェンダー秩序の特徴を解明することを試みた。フランスの国立文書館や国立図書館、フリーメイソン団体で収集した史料を読解することで、男性が女性の排除と受容を正当化する論理や表象、男性側が女性に期待した役割、女性の活動実態、とくに宴会への参加や相互扶助の利用を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、日本ではまだ未開拓の分野に属する18世紀ヨーロッパ・フリーメイソン研究のなかでも、ほとんど実態が知られていない女性メンバーの地位や活動に関して、欧米の研究動向を踏まえて、一次史料の体系的分析にもとづいて行われた初めてのものである。男性友愛団における女性の受容や排除の様態を明らかにする本研究は、近世から近代への移行期にある18世紀の身分制社会や家父長制のあり方、女性解放思想の形成に関する理解を刷新することにつながる。さらに、現代日本社会におけるジェンダー平等を推進するための議論に対しても比較や考察の素材を提供できる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I first examined why the Order of Freemasons, a secret fraternity that started as a male organization in the early modern British Isles, began to accept women in the process of propagation and establishment in 18th century France. Then, by analyzing the status and roles of women in the organization, I attempted to elucidate the characteristics of the lifestyle and gender order of the elite class from the Old Regime to the Revolutionary period. By reading historical documents collected in the French National Archives, National Library, and Freemasonry organizations, I clarified the logic and representations by which men justified the exclusion and acceptance of women, the roles expected of women by the male side, and the reality of women's activities, especially their participation in banquets and use of mutual aid.

研究分野：近世フランス史

キーワード：フリーメイソン　女性　18世紀　フランス　結社　ソシアビリテ　社交　ジェンダー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究の対象であるフリーメイソン団は、近世ブリテン諸島に出現した、政治的中立と宗教的寛容を原則に普遍的友愛を目標とする秘密社交組織であり、主な活動は集会と儀礼の執行、宴会、相互扶助と慈善である。メイソン団は 1720 年代以降、ヨーロッパ各地と植民地に伝播し、多様な国民や宗派・宗教、身分や職業の人々からなる上流社交空間として定着し、啓蒙思想の伝播や習俗の文明化、政治社会の民主化に貢献したとされる。こうしたメイソン団の伝播と定着を理解するための重要な視座の一つとして、近年の欧米の歴史学界において注目されているのが、女性メイソンが果たした役割である。

メイソン団は創立時には女性を奴隷とともに排除していたが、1740 年代以降、フランスを筆頭とする大陸ヨーロッパ諸国においては一部の会所（Lodge/Loge）が、男性会員の後見下にその妻や娘を受け入れる「採養会所」（Loge d’adoption）を設立し始めた。フランス王国では革命までに貴族身分の女性を主体とする約 3000 名が加入し、約 50 の採養会所が存在したとされる。

フランスのフリーメイソン史研究では Margaret-C. Jacob と Janet Burke による先駆的業績にもかかわらず、女性メイソンは人数の少なさ、史料の制約やジェンダー概念の受容の遅れから長らく重要性を認められてこなかった。しかし 2000 年代以降、ロシアからフランスに返還された新史料群の公開やジェンダー法制の進展や意識の変化を背景として、女性用の加入儀礼に関する思想研究が進展し、結社における女性の行為主体性についての議論がなされている（Jan A. M. Snoek, Initiating Women in Freemasonry: The Adoption Rite, 2011 等）。

他方で男性メイソン史研究においてもジェンダーの観点が導入されている。そこでは男性メイソンのホモソーシャルな友情と女性の排除が、近世の身分制社会から近代の階級社会への移行期である 18 世紀において家父長制と異性愛規範に立脚するジェンダー秩序の形成と再編にいかなる役割を果たしたのかが研究課題となっている（Kenneth Loiselle, Brotherly Love: Freemasonry and Male Friendship in Enlightenment France, 2014 等）。

２．研究の目的

本研究の課題は上述した研究動向を踏まえつつ、21 世紀に公開された新史料群を体系的に調査しジェンダーの観点から分析することで、男性集団として出発したフリーメイソン団の一部がなぜ女性を受け入れたのか、受け入れられた女性は会所内でいかなる役割を期待されていたのか、女性は実際にどのような活動を行い、いかなる役割を果たしていたのかを検討することにある。

このように 18 世紀フランスのフリーメイソン団における女性の受容の様態と背景、女性側の参加動機や活動を解明する本研究は、近世フランス上流社交界における貴族女性の地位と役割に関する理解を刷新し、身分制と家父長制と異性愛規範に基礎をおく近世ヨーロッパのジェンダー秩序、近世から近代への移行期にあるフランス社会の親密圏や公共圏の形成と再編の過程やその特質に関する知見の深化に貢献することを目指す。

３．研究の方法

本研究は以下の 3 つの課題から構成される。

（a）フリーメイソン団が 1740 年代以降、女性を受け入れ始めた背景

メイソン団がフランスに浸透し始めた 1730～1750 年代に王国の治安行政官やカトリック聖職者により表明された反メイソン言説をジェンダーの観点から読解することで、夫・家長である男性メイソンが女性を排除した社交を実践するうえで直面した困難を明らかにする。特に会所が男性同性愛や売春婦との享楽にふける場であるとの嫌疑を受けていたことに着目する。

（b）女性の受容を支持・反対する男性メイソンによる言説

1740～1770 年代に男性メイソンが女性の受容をめぐって出版メディア上で展開した議論において、いかなる論理や表象を用いて女性の受容や排除を正当化したのかを分析する。特にメイソン団が婚姻といった正統なジェンダー秩序を尊重することを外部世界にアピールするうえで女性に期待していた役割を明らかにする。

（c）男性による女性の「採養」の特徴と女性メイソンの主体性

男女混成会所の集会記録や規約、女性向けの儀礼手引き書を読解することで、男性メイソンが女性に要求した道徳的資質や活動に課した規則や制約について分析する。そのうえで、同時代の貴族女性の書簡や日記なども援用しつつ、女性が相互扶助や慈善活動において男性の課す規範や規則をいかに受容し、どの程度主体的に活動できたのかを検討する。

(a)～(c)の観点から18世紀に女性メイソンが多かったとされるパリやボルドーを対象に、史料を収集し分析する。渉猟する史料群はフランス国立図書館が所蔵するメイソン文書群に加えて、2000年末以降、パリのメイソン団体図書館で公開された「ロシア文書」である。「ロシア文書」とは、ヴィシー政権期にフランスからドイツ軍によって持ち出され、戦後モスクワに保存されていたが、冷戦終結後に返還されたメイソン文書群である。

４．研究成果

研究従事期間の１年目には、18 世紀フランスのジェンダー史やフリーメイソン史に関する先行研究の動向や史料状況を把握するために、関連文献や刊行史料集の収集と読解に着手した。

研究課題の遂行に必要な一次史料の調査と収集については、コロナ禍での渡航制限や規制、燃料費の高騰や円安の進行、ワクチン接種後の体調不良のため、フランスへの渡航を繰り返し延期することになった。2023年2月13日から3月1日までフランスに滞在することができ、パリのフランス国立図書館リシュリュー館・フランソワ・ミッテラン館、フランス国立文書館ピエールフィット館を中心に史料調査を実施した。18 世紀パリやヴェルサイユに存在していた女性メイソンに関する規約、集会記録、儀礼の手引書、会員名簿、書簡など未刊行の手稿史料約40点を閲覧し、複写することができた。加えて、パリ９区にあるフリーメイソン統轄団体フランス大東方会(Grand Orient de France)を訪問し、博物館で展示されている近代フランスの女性メイソンに関する貴重資料を写真撮影することができた。

研究成果の一部を研究従事期間の 2 年目以降、口頭報告や解説記事、論文のかたちで公表した。

2021年10月2日に関西フランス史研究会の例会で「18 世紀フランスにおけるフリーメイソン団と女性」と題する口頭報告を行い、女性メイソンに関する先行研究の論点と主要な史料類型を紹介したうえで、18 世紀フランスにおける女性メイソンの地位や役割に関する見取り図と残された研究課題を提示し、専門家と意見の交換をした。

加えて、18 世紀ヨーロッパ・フリーメイソン研究を牽引するコートダジュール大学近世史教授ピエール=イヴ・ボルペールによる 「時宜を得て政治的・社会的に正しくある―旧体制末期フランスのフリーメイソン・国家・身分制社会―」の翻訳と解説を行い、『人文学報』（東京都立大学人文科学研究科歴史学・考古学教室）（518-9号、2022年3月） に寄稿した。

日本18世紀学会が編集した『啓蒙思想の百科事典』（丸善出版、2023年１月）の第３部第２章に「フリーメイソン」項目を寄稿した。

2021年6月にパリで開催されたフリーメイソン研究の国際研究集会で報告予定であったが、コロナ禍により出席がかなわなかった。だが、集会主催者が編者となった論文集に18世紀ボルドーのフリーメイソンと植民地世界との関係を主題とする論考を寄稿した（Eric Saunier (dir.), La Franc-maçonnerie dans les colonies (XVIIIe-XXe siecles)：De l’Atlantique à la mer de Chine, Paris, 2022)。

2022 年にフリーメイソン団の慈善活動に関する論文を日本西洋史学会編『西洋史学』に投稿し、修正のうえ掲載の査読結果を受けた。現在、査読所見にもとづき修正作業を進めており、近日中に修正稿を提出する予定である。

これに加えて、2023年2月に収集した史料の分析から得られた成果を2023年度以降、学会発表や投稿論文のかたちで公表する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 ピエール＝イヴ・ボルペール、田瀬 望	４．巻 518-9
２．論文標題 時宜を得て政治的・社会的に正しくある　旧体制期末期フランスのフリーメイソン・国家・身分制社会	５．発行年 2022年
３．雑誌名 人文学報（東京都立大学人文科学研究科）	６．最初と最後の頁 102-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田瀬 望	４．巻 新91
２．論文標題 （書評）松浦義弘・山﨑耕一編『東アジアから見たフランス革命』（風間書房、2021年）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 史潮	６．最初と最後の頁 92-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田瀬望	４．巻 270
２．論文標題 （書籍紹介）深沢克己著『マルセイユの都市空間―幻想と実存のあいだで―』（刀水書房、2017年）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 西洋史学	６．最初と最後の頁 136*137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 田瀬 望
２．発表標題 18世紀フランスにおけるフリーメイソン団と女性
３．学会等名 関西フランス史研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 田瀬望
２．発表標題 啓蒙期フランスのフリーメイソン団と外部世界：「俗人」に対する慈善に着目して
３．学会等名 フランス革命研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 田瀬望
２．発表標題 友愛と愛国：フランス革命期ボルドーのフリーメイソン
３．学会等名 日本西洋史学会第70回大会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

１．著者名 デイヴィド・アブラフィア、高山 博、佐藤 昇、藤崎 衛、田瀬 望	４．発行年 2021年
２．出版社 藤原書店	５．総ページ数 512
３．書名 地中海と人間―原始・古代から現代まで Ⅱ	

１．著者名 Eric Saunier et al.	４．発行年 2022年
２．出版社 Maisonneuve et Larose / Hemisphere editions	５．総ページ数 246
３．書名 La franc-maconnerie dans les colonies : de l'Atlantique a la mer de Chine (XVIIIe-XXe siecle)	

１．著者名 日本18世紀学会『啓蒙思想の百科事典』編集委員会	４．発行年 2023年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 714
３．書名 啓蒙思想の百科事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関